



[ホーム](#) > [市政情報](#) > [横須賀市長](#) > [市長記者会見](#) > [横須賀市長記者会見「\(2013年\)」](#) > 横須賀市長記者会見「2013年4月25日」

更新日:2013年5月9日

## 横須賀市長記者会見「2013年4月25日」

日時	平成25年(2013年)4月25日(木曜日)11時～11時42分
場所	1号館3階会議室
案件	1. <a href="#">「よこすかカレーフェスティバル2013」～presentedbyアサヒグループ～</a>

### 市長からの話題

本日は、カレーフェスティバルの案件を記者発表させていただきます。

ことし日本最大級のカレーイベント、よこすかカレーフェスティバル2013をアサヒグループの協賛を得て開催いたします。ことしのカレーフェスティバルでは、北は北海道、南は九州の宮崎まで全国のご当地カレーが大集結いたします。毎年好評のよこすか海軍カレーバイキングコーナーも設置します。新たな企画として、株式会社カレー総合研究所代表取締役所長の井上岳久様のご協力を得て、全国のご当地カレー団体が参加する「全国ご当地カレーグランプリの開催」、そして激辛カレー店が軒を連ねるHOTコーナーを設置いたします。ステージイベントは、海上自衛隊横須賀音楽隊をはじめ、学校やダンス教室などから大勢の皆さんがさまざまな形で出演していただけることとなっています。2日目には「カレーの街よこすか〇×クイズ大会」も開催いたします。カレーフェスティバルは、ことしで15回目となり、市民の皆さんはもとより全国的にも広く認知されているイベントです。昨年2日間の動員数として、約5万6,000人を記録していき、大変な盛況ぶりでした。ことしは、昨年以上の賑わいを期待するとともに、大勢の皆さんにカレーをきっかけとして、横須賀市の素晴らしさを知っていただきたいと考えています。またことしは、5月8日、9日にカレーフェスティバルの連動企画として、よこすかカレーフェスティバルを開催いたします。3枚綴りのチケットを購入して、横須賀中央周辺エリアのカレーの店舗を食べ歩く企画です。15の参加店舗にてバルチケット対象メニューが提供されます。チケットは切り離して使用できますので、ご家族ご友人お誘い合わせの上ご参加いただきたいと思います。

### 質疑応答

記者

グランプリ形式で、過去に何か実施していましたか。

市長

今までカレーフェスティバルに合わせて、お土産コンテストを開催したことがありますけれども、ご当地カレーのグランプリを決めるのは今回初めての企画です。

記者

この株式会社カレー総合研究所の井上所長について教えてください。

市長

カレーの文化や歴史などカレー研究の第一人者だというふうにお聞きしています。審査委員長をこの方にお願しようと思っています。

経済部長

もともとカレーミュージアムの所長をしていた方で、カレーの世界ではかなり有名です。

記者

15周年ということで、例年より業者数が増えたのですか。

経済部長

事業者数は、おととしが79、昨年在81です。大体80前後です。場所がそれほどないので、この数字が限界だと思います。

記者

カレーグランプリに参加する団体はどのように選出されたのですか。

経済部長

今まで参加してくれたところにはそれぞれメールで送り、横須賀市のホームページにも載せて募集をかけました。

ご当地カレーということで、地元の観光協会・市・町の推薦状のあるところに限定させていただきました。

記者

味や作り方ではなく、ご当地カレーということが1つの基準ですか。

経済部長

ご当地カレーで地元の町おこしをしている同士が一同に会して、お互い横の繋がりも持ちましようということも趣旨の一つになっています。

記者

審査方法は審査員と来場者による人気投票とあるのですけれども、具体的に来場者がどのぐらい参加できるのか、どういった形で決めるのかを教えてください。

市長

来場者には300枚の投票券をお配りし、それと審査員の点数を合算します。

記者

投票券は、当日会場で、先着順に配るのですか。

市長

事業者にお渡ししておき、それを販売の時にお渡しするという形です。

記者

審査員は、どういった方がなるのでしょうか。

経済部長

井上さんとカレーの街よこすか事業者部会などをお願いする予定です。

記者

グランプリの実施日は最終日ですか。

経済部長

初日です。その日の夜に表彰式を考えています。

記者

300枚をこの12団体に均等に配っておくということですか。

経済部長

そうです。

記者

売り上げの一番高い所が、一位になる可能性が高いということですか。

経済部長

井上さんたちによる審査も入りますので、専門家の審査と一般の方の審査の合算ということになります。

市長

購入はしたものの投票していただけないかもしれません。

記者

投票箱に入れてもらうのですか。

市長

はい。

記者

横須賀のカレーが参加できないのはどういう理由からですか。

市長

一つのブランド戦略だと思っていただきたいと思います。横須賀と言えばカレーの街ということをぜひ広めていきたいというときに、当然よこすか海軍カレーが参加してしまえば、賞をとってしまう可能性が極めて高いだろうと思います。このねらいとしては、各ご当地に戻った時に横須賀で賞を取りましたということを各地域でアナウンスメントしていただくことが、何よりも大事だと思っています。そういった宣伝効果も含めたグランプリの開催ですから、よこすか海軍カレーが出て、趣旨からあまり意味がないということをご理解いただきたいと思います。

記者

例年常連だった山口県のカレーとか石川県のカレーは、今回参加してないのですか。

経済部長

都合なのでわからないですけども、声掛けは必ずしています。

市長

カレーグランプリには出場せず、参加する方もいらっしゃいます。

経済部長

観光協会の推薦などの条件を満たしてないので、出られなかったところもあるかもしれないです。

記者

藤沢とか神奈川県からも入っているのですか。

市長

はい。

記者

1番遠いのは宮崎ですか。

市長

北海道から宮崎です。

記者

カレーパルのチケットをどのぐらい用意しているのかと連動企画としてこういう形で開催した狙いをお願いします

市長

チケットは、1,500部用意しています。

このチケットにはダブルチャンスが付いているのですが、これに応募するとカレーフェスティバルでカレーバイキングが優先して利用できるパスが当たる仕掛けを作っています。狙いとしては、このカレーパルに参加した人が、次もカレーフェスティバルがあるから来てみようかなというふうに思っていたことです。さらには、横須賀はいいまちだなと思っていたいただき、通常のカレー事業者の皆さんの所に、また別の機会に足を運んでいただき、横須賀海軍カレーファンを増やそうというのが狙いの一つです。

記者

今回、平日2日間に限定しているのですが、どうしても利用者が、市内に偏るのではないかなと思うのですがいかがでしょうか。

市長

その可能性はありますので、開催日程等については今回の結果を見て、次年度以降どうするかを考えたいと思っています。

記者

来年度以降も続けていくということですか。

市長

私の気持ちとしてはそうです。結果を見て判断することになります。カレーフェスティバルで宣伝をして、今度はお店で食べてみようと思ってもら方がいいかもしれないですし、そうするとカレーフェスティバルより後の開催がいいということになるかもしれないですし、そういったいろいろな仕掛けは今後も行っていきたいと思っています。

## 案件外

---

### 【市長選挙について】

記者

まもなく選挙まで2カ月ですけども、今回の選挙がどういったことが争点になると望ましいとお考えですか。

市長

私としては、やはり将来の次の世代に責任を持った政策をどれだけ訴えることができるかというのが、1つのポイントになると思っています。それは福祉や医療というどうしても今後伸びていく社会保障費に対して、どのように対応していくか、あるいは子育て世代の皆さん、これから生まれてこようとしている赤ちゃん、そういうところにどういった政策を打っていけるか、また地域経済の活性化というのは急務ですからこの地域経済活性化のためにどういった政策を打っていけるか、これらをやはり次の世代というところにしっかりと責任を持って施策展開を行うことができるかどうか、それが一番の判断基準になるだろうと思っています。

### 【漁網受け入れの問題について】

記者

箱根町でこの前、地元説明会が行われたようで、当初町が予想していたよりも多少放射能に対する不安とか、横須賀と同じような「なぜ地元で処理しないのか」という不満の声もあったように聞いております。しかし、大きな反発というのはなくて、あるいは少ないにしても行政と住民との話し合いの第一歩として、説明会はよかったのではないかなという見方があるのですけれども、先日まで市長は周辺への自治体への働き掛けとか他の業者さんへのお声掛けとか、横須賀市としてできることをしていきたいというお話でしたけれども、その後、何か具体的な取り組みで進んでいることがあったら教えていただけますか。

市長

特に進めているのは、今おっしゃった3つのうち2つです。被災地周辺で何とか処理ができないかという働き掛けについては、引き続き行っています。神奈川県に近い市というのは、手がなかなか打てなくなってきていると思っています。ただ、箱根町が声を上げていただいたというのは、大きな状況の変化だと受け止めています。というのは2つ目として、大楠の地域の皆さんからいただいたご意見の中になぜ大楠だけが、芦名だけがというご意見がありました。箱根が手を挙げるということは、そういった芦名だけ大楠だけというわけではなくなったわけですので、大きく状況が変わってきていると思います。そういう意味では、県が行う説明について、もう少し大楠の地元の皆さんが話を聞いていただけないか、アプローチは繰り返し続けているところです。

#### 【自治基本条例について】

記者

選挙ともちょっと絡みますが、自治基本条例の今後について今の状況、それから次の議会に向けた動きは、どうふうに考えていらっしゃいますか。

市長

引き続き、この自治基本条例のあり方についてご意見はお伺いしていきたいと思っている状況です。市の内部で進める作業としては、議会で頂いたご意見、市民の皆さんから頂いてきたご意見、そういったものを精査しながら自治基本条例のあるべき姿を検討しているところです。ただ、6月の議会にというスケジュール感では現在のところは動いてはいません。

記者

自治基本条例について関連する予算が減額修正されていますけれども、それが今後のスケジュール感に何らかのインパクトを与えたという事実はございますか。

市長

多少それは市として、いろいろな出前トークを行っていきいたいという思いがありましたので、これについてはちょっとできにくくなったという思いがありますが、事務費の中でできることを行っていこうと思います。また、説明会については条例案を提出した際のパブリックコメントに合わせて行うということでしたので、これについては別にスケジュールとは大きな影響なく進めることができるということです。

記者

出前トークとの頻度やインターバルが若干薄めになるということですか。

市長

その辺は、少し想定しているよりは薄くなってしまいかもしれません。ただ、これまで重ねてきた回数、頂いてきたご意見の数がありますので、そういうものも一つ一つ精査をしていきたいと思っています。

記者

新年度が始まって、もう開催していらっしゃいますか。

市長

今のところは、まだです。

記者

住民投票についての考えは、お変わりございませんか。

市長

そこも大きな議論のポイントになったところですから、議会での頂いたご意見、そして市民の皆さんから、両方からのご意見がある中で、私としても考えを整理してまとめていかなければいけないと思っています。ですから、変わらないという前提では考えてはなくて、しっかりとご意見を精査しながら結論を出していきたいと思っています。

記者

その変わらないという前提ではないというお話ですけれども、例えばそれが常設型ではないとか、ネガティブリストのあり方について前提を変えるとか、そういう大枠の仕組み作りに踏み込んで、もっとフリーキックにしてもいいというお考えですか。

市長

一番議論になったのは、常設であるか否かという点ですから、これについて私当初は常設型という形で訴えてはいましたけれども、この点も含めて否決をされているわけですから、これを何が何でも常設型という形ではなく、そのメリット、デメリット、市に与える影響、そういう観点でしっかり精査をして、結論を出していきたいと思っています。

記者

まとめていらっしゃいますご自身のお考えが、選挙戦での争点の一つになり得るとお考えですか。

市長

自治基本条例をどうしていくかということは、一つ選挙のポイントにはなるかとは思いますが、あくまで住民投票というは手段ですから、自治の基本、市民が主役のまちづくりということをお認めなのか認めないのかという点は、場合によっては争点になるかもしれませんが、その上で具体的にそれをどう実現するのかは、個別の政策というところに位置付けられてくると思います。

記者

制度設計についてはということですね。

市長

そうです。

記者

具体的な政策についてはどういう形でまとめられて、どういうふうにも市民に訴えていけますか。

市長

今、既に少しずつまとめている中で、当然今年度の予算も含めてですけれども、今後行っていきたいと思っていることの頭出しなどは、行っているつもりです。今後、もう少しそれを深めていく中で、5月3日にmanifestoの検証、6月10日に公開討論会の場をJCさんが用意していただいています。当然、私の後援会でもいろいろ企画をしていますから、そういったイベントの中での発表が適当ではないかと思っています。ですから、どのイベントでどれを発表していくというのは、今はっきり決まっているわけではありません。

#### 【経済活性化対策について】

記者

ポストアウトレットがオープンしてしばらく経ちましたけれども、今のところ出足についてのご評価はいかがですか。

市長

出足は好調です。特に初日は1,000万円以上売り上げて、また4月中も雨の平日でも300万円前後売り上げがあるというのは、やはり好調と言う以外何ものでもないと思っています。ただ一方で、やはりスタッフの皆さんのお客様に対する対応がまだまだ慣れていないところがあり、その結果、買い物に来たお客様の満足度がそれほど高くないようなケースもあり得ると思っています。今回、3月13日にオープンしたというのは、ゴールデンウィークが1番メインターゲットとして考えていますので、それまでによくスタッフの皆さんのトレーニングを各出店事業者さんには積んでいただいて、ゴールデンウィーク以降来たお客さんはもう1回来てみたいと思ってもらえるような施設に育てていきたいと思っています。

記者

市長のおっしゃっておられた多言語対応、ベース関係者も含めた多国籍対応についてはいかがですか。

市長

全部が全部できているというふうには思っていませんけれども、まずはカード決済についても導入をしまして、それは考え方によってはドル建てでも買い物ができるということにもなりますし、これから横須賀で取れた魚のレシピとか食べ方とかも含めて、ベース側にもいろいろな広報をしていきたいと思っています。

記者

中心市街地の件で、きのう大滝町2丁目の再開発事業の起工式が行われましたが、残念ながらもう一つのさいか屋の方はまだ見通しが立っていない状況で、これから市街地活性化についてはどのように考えていますか。

市長

きのうは、本当に象徴的な日だったと私も思っています。この大滝町2丁目街区の再開発事業が起工式を迎え、特に私が市長になってからも何度もやはり大きなハードルがあって、それを乗り越えるたびに一步一步進めてきているという実感があった中で、起工式までたどり着いたというのは、本当に感慨深いものがあると思っています。その中で、やはり横須賀中央エリアを再生していくためのシンボルタワーにもなっていくだろうと思います。当初から試金石という言葉を使っていましたが、ここまで関係者の皆さんのご尽力によって、こぎ着けることができるようになったというのは、やはり大きな弾みになり得るだろうと思っています。さいか屋の跡地についても、経済部の中に中心市街地の活性化担当課長を置いて、靴底を減らして営業活動しようという意識統一をしているところです。例えば、きのう来たマンションデベロッパーの方とか、いろいろな設計会社の方には、これから直接訪問してこうという話もしていますし、横須賀の魅力に気付いていただける事業者さん、金融機関さん、あるいは商社さんといった方々に積極的にアプローチをしていって、このさいか屋の跡地を含めて、中心市街地の活性化に取り組んでいきたいと思っています。

記者

横須賀市のブランドを再設定し直すということは前々からおっしゃっておられましたけれども、残念ながらリ・ブランディングの計画については、議会から指摘があっとうまいかなかったということですが、その辺はいかがですか。

市長

リ・ブランディング研究会からいただいた報告書の中でうたわわれている「子どもが主役になれるまち」という一つの大きな都市イメージというものは、横須賀のまちの魅力を売っていく上で大変重要なキーワードになってくると思っています。リ・ブランディング研究会で横須賀のまちの良さである、温暖な気候とか、新鮮な食材が手頃な価格で楽しめるとか、緑が豊かであるとかいうことを一つ一つ個別に売っていくのではなく、子どもが主役になれるまちということ、横須賀市の土地ブランドとし

て、都市イメージとして設定することによって、さまざまな横須賀の良いところを売っていけると思っています。そのためには、市の公園施設とか具体的なイベント事業という中で、子どもが主役になれるまちをどう具体化していくか、表現していくか、発信していくかを考えていきたいと思っています。

記者

先ほども大滝町2丁目地区市街地再開発に絡みまして、地元の例えば臼井不動産さんが周辺でマンション開発を進めていたり、都内のデベロッパーが汐入周辺でマンションを建設しておられて、横須賀中心部でマンション建設ラッシュの体が出てきました。そうしますと、例えば大船や武蔵小杉で市街地再開発があり、マンション供給過多になりそうな情勢の中で、横須賀市のシティーセールスを訴えていかなければならないと思うのですけれども、どのようにお考えですか。

市長

マンションについては、例えば物件の価格、アクセスの良さなども売りにはなってくると思いますが、やはり横須賀市としては若い世代にどれだけ選ばれるまちになっていくかということが大事だと思っています。そのためには、子育て施策を充実させていくことが何より大事になってくるだろうと考えています。子育て施策というときに、やはり、まず子どもの医療費の無料化、これの額面をどう財源の手当てをしながら着実に上げていくことができるかというシンボリックな施策と、やはり横須賀市ならではの本当に手の行き届いた施策、例えば新生児の訪問がほぼ100パーセントに近い割合で訪問できていること、あるいは学童保育を充実していること、待機児童が少ないことなどを、やはり一つパッケージのような形で家探しをしているような方々に売り込んでいくということも、大事になってくるだろうと思っています。そういう形で、若い世代から選ばれるまちにしていきたいと思っています。

#### 【中学校給食の実施について】

記者

他の候補が、中学校の給食の実現を訴えておられますけれども、財源的な措置としてはかなり厳しいなと個人的には思っているのですが、市長のお考えはいかがですか。

市長

とても無責任な政策だというふうには私は思っています。財源の手当てというのは到底今の段階でできるような状況ではありませんし、実際、小学校の給食の調理場が使えないということで一定期間宅配を、別のAという小学校からBという小学校に運んでいた時期があって、それを1年に換算すると1億円以上かかっていました。中学校は23校ですから、給食センターのような所を造ったとしても、年間で宅配だけで23億円になります。建設費、センターの運営費を考えたら到底できるような政策ではありません。私としては、今あるスクールランチの充実というのを図る必要があると思います。今、小学校に通っているお子さんがいるご家庭に、スクールランチがあるという情報が十分に届いてないケースがあるという話も聞きます。その小学生のお母さんやお父さんが、中学校に入ったら給食が欲しいというふうに言われるのは当然の気持ちとは思いますが、スクールランチという制度をしっかりと充実させていき、今挙がっている課題としては値段、栄養面、あと後ろめたさ、そういったものを少し課題解決しながら、スクールランチを充実させることによって働いているお母さん、病気になられたお母さん、一人親の方、そういう方々のためになるような具体的で、責任のある政策を行っていききたいと思っています。

記者

分かりました。

#### 【京急線ガラス破損事故について】

記者

市として、京急に何か原因関係で問い合わせたり、あるいは京急から回答があったりということはありませんか。

市長

フォーマルな形では特に行ってはいません。ただ、やはり少し特異な事故ですので、お会いした折に「どういう原因なのですか」とお尋ねすることはありましたが、京急さんとしても原因はあまり分からないということです。

記者

フォーマルでは行わないというのは、どういうことですか。

市長

事故の大きさというところが、やはり一番あるのではないかと思います。例えば、この間の脱線事故が起きましたけれども、あの折には先方からも市長室にお越しいただきましたし、市からもさまざまな協力体制を敷いたり、情報提供を求めたり説明してきましたが、今回特に大きな被害に遭われた方がいないというふうに聞いていますので、特にフォーマルには行っていません。

記者

高校生の方は怪我をされていますよね。

市長

怪我をしています。

記者

では、今後もフォーマルな聞き取りは行わないということですか。

市長

考え方が本当に難しいですが、例えば、そういった指導権を持っているところなどであればですが、市として指導の対象ではないです。

#### 【原子力艦船の防災対策について】

記者

先日の原子力艦船に関する外務省要請の件で、そこで実務者同士の会合を開くという提案を受けましたけれども、あの時、市長は月内、もしくは来月中には1回目というお話でしたが、その後進展があったかということ、会合での中身ですが、横須賀市の現状を国に知っていただくということが主になるかと思うのですが、市の計画策定がもう目前に迫っている中で、具体的な何か成果を引き出すために、何かその場でこういうことをしたいというようなお考えがごありでしょうか。

市長

今月中に行おうと調整しています。実務者レベルの会合ということですが、市としては市の実状を理解をしていただく必要があると思っています。ただ、安心のために市ができることはたくさんあると思いますが、安全のためにできること、特に基準をどうするかということは、国が責任を持って定めるべきものであると思っています。ですから、その窮状を訴えること以上のことは、しづらいかなと思います。当然、市としては、今回出た内閣府の危機管理室と規制庁の方針との違いだけではなくて、さらにその上にファクトシートの違いというものがありますから、それも含めてやはり訴えるいい機会にしていきたいと思っています。

記者

会合には、規制庁の方からは出席はしてもらえそうなのでしょうか。

政策推進部長

規制庁については、確認をさせていただきます。

市長

注目も集めていますから、実施日やメンバーなどについては、公表させていただきたいと思ひますし、その後、レクチャー等必要であれば考えたいと思ひます。

記者

外務省からは、文章の解釈の仕方というようなところで、何か話は出ていませんか。

市長

出ていないです。あくまで解釈上の問題ではないと思ひています。

記者

市はそうだと思ひても、向こうからの話の中でそういうことは出ていないですか。

市長

まったく出ていないです。

記者

出てないですか。

市長

それは解釈だと言われるのは、極めて市としてはなかなか受け入れられないです。安全を解釈するということは、市にはできない立場です。

#### 【横須賀美術館について】

記者

美術館の次の企画は予算減額されてしまいましたが、それはいかがですか。

市長

顧問弁護士に議会で指摘いただいた件について、ご意見を伺ったところ、です。ですので、その頂いたご意見をやはり議会にはご報告する必要があるだろうと思ひていますので、まずそういった段取りを進めているところ、です。

記者

市としては、法解釈上問題はないという立場は変わっていないですか。

市長

変わっていません。

記者

公有財産の目的外使用として通用するやり方であるということですか。

市長

そうです。ちょっとテクニカルな話ではあるのですが、目的外の使用に準じた形で、部局内で貸し借りをしているということです。まず美術館条例がありますので、その美術館条例の適用の範囲外という形で教育委員会から経済部が借り受けて、その経済部が実施する事業として、その美術館を使うということです。ですから、事業者が直接美術館を公有財産の目的外使用で借りているわけではなくて、あくまで市と一緒にやる事業として、経済部が教育委員会から場所を借りるということです。その時の手続きの中では、公有財産の目的外使用に準じた形で使わせてもらうという解釈でした。

記者

年度内に開催するというのは、変えていないですか。

市長

それは未定です。今回、予算修正がありましたので、今のままでは開催できません。

記者

そうですね。なるべく早く実施する、しないを決めた上で、もう1回補正予算か何かで上程し直していくのですか。

市長

いずれにしても、未定になっているのはいい状況ではありませんから、実施する、しないをはっきりさせる必要はあるだろうと思っています。実施する場合、補正予算というのも1つの選択肢で挙がってくるだろうと思っています。

記者

いつまでにははっきりさせたいとお考えですか。

市長

向こう側の事務所さんの意向も、われわれは聞いていかなければいけませんから、今はっきり申し上げることはできません。

記者

アーティストサイドの方からは、このてん末について何か言われたりしませんでしたか。

市長

私は直接受けていません。ただ部局としては、いろいろやり取りしていると思います。

記者

こんな話があるのかみたいな言われ方をされたりしてないのかなと思っています。

市長

私は直接受けていません。

#### お問い合わせ

##### [政策推進部広報課](#)

横須賀市小川町11番地 本館1号館4階 <郵便物:「〒238-8550 広報課」で届きます>

電話番号:046-822-9815

ファクス番号:046-822-4711

メール:[pjh-mo@city.yokosuka.kanagawa.jp](mailto:pjh-mo@city.yokosuka.kanagawa.jp)

横須賀市役所

〒238-8550 神奈川県横須賀市小川町11 電話番号 046-822-4000 ファクス番号 046-822-7795

(c) 2010 Yokosuka City